

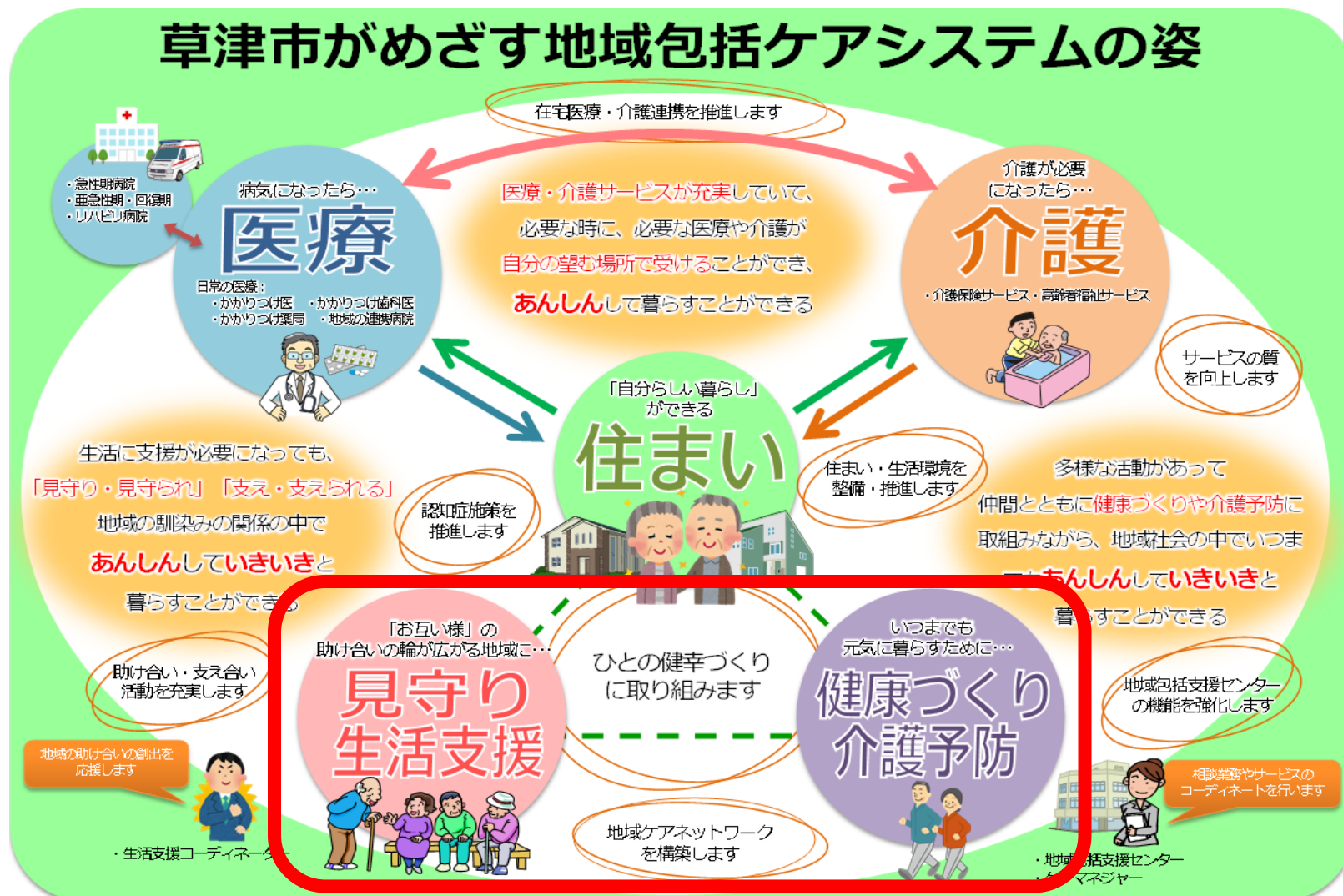
R5年度 生活支援体制整備事業における 取組状況および課題について

草津市 人とくらしのサポートセンター

生活支援体制整備事業 概要

地域包括ケアシステムの構築について

○高齢化の進展だけでなく、単身世帯や高齢者のみの世帯が増加し、支援を必要とする高齢者が増加することで、生活支援の必要性が増大していく中・・・



誰もが暮らしやすい地域づくりをいかに進めるか

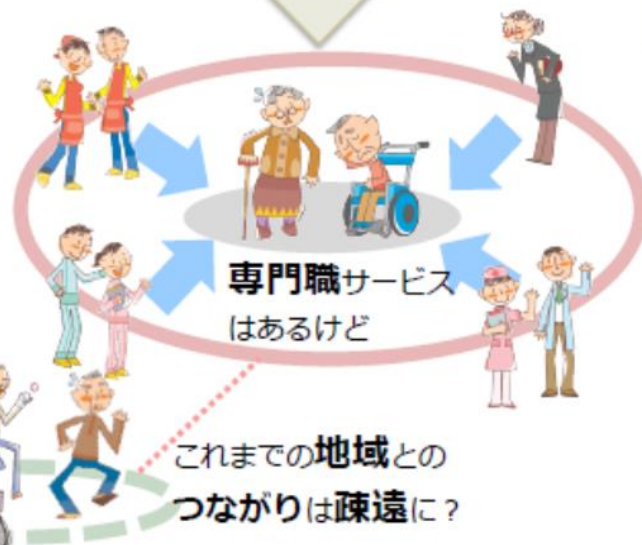
地域包括ケアシステムの構築について

医療・介護のサービスが充実しただけでは、365日地域で暮らし続けることは容易ではありません。介護が必要になる前から地域で気かけ合い・見守り合い・支え合うことが重要です。

現状の課題



支援や介護が必要になると、友人・隣人との関係は希薄になり、支援を受ける一方向の人間関係に変化



これから



“お互いさまの助け合い”の輪を広げていくことで、支援や介護が必要になっても、地域社会の中から切り離されず、なじみの関係を継続できる

出典：三菱UFJリサーチ & コンサルティング 「地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業の市町村による円滑な実施に向けた調査研究事業 新しい総合事業における移行戦略のポイント解説（中間報告）」

平成27年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

基本目標 1. 地域包括ケアシステムの深化・推進
基本施策 (1)地域ケアネットワークの構築
基本施策 (2)助け合い・支え合い活動の充実

事業

3 生活支援体制整備事業の推進

【目的】

地域の様々な関係者のネットワークを構築し、高齢者の生活に必要な地域資源を把握するとともに地域の高齢者の困り事は何かを考え、必要な地域資源を拡大・創出することで、高齢者の介護予防やお互い様の声かけ・見守りをはじめとする生活支援の充実を推進する。

→地域包括ケアシステムの構築＝住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるまちづくりの推進

1. 協働の基盤づくり

チームを組み、試行錯誤の協働を通じてチーム力を高めていく

2. 地域資源の把握と地域課題の抽出

地域づくりを「自分ごと」として捉える人を増やすと同時に、資源の充実に向けた方針を検討する

3. 地域資源の充実

①多様な参加の
きっかけ作り

②今ある活動や
サービスの強化

③新たな活動や
サービスの開発

生活支援コーディネーター
(地域支え合い推進員)
＋
協議体

第1層（市域全域）
第2層（各小学校区）

第1層協議体、生活支援
コーディネーターの役割

◇地域横断的な課題の抽出
や資源の充実

◇複数の第2層、市全域、
広域で左記の機能を実施

第1層（市域全域）

第1層SC
（人づくりのサポートセンター）



草津市あんしんいきいきプラン委員会
第1層協議体

※SC…生活支援コーディネーター

R5年度から人づくりのサポートセンターで
第1層SC、第2層SC支援を実施。

平成31年2月27日開催の第3回草津市あんしんいきいきプラン委員会において、草津市あんしんいきいきプラン委員会を第1層協議体と位置付けることを了承いただいています。

【役割】

市域全域や複数の第2層協議体に関わる広域的観点から

- ◎企画、立案、方針策定を行う場
- ◎地域づくりにおける意思統一（方向性の共有）の場
- ◎地域づくりを推進するための施策等の検討

第2層（小学校区）

第2層SC



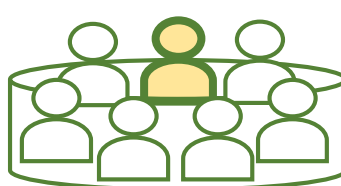
第2層協議体

第2層SC



第2層協議体

第2層SC（市社協）



第2層協議体

【役割】

各小学校区（第2層）において、

- ◎有機的なネットワーク化
- ◎ニーズと取組のマッチング
- ◎地域資源の発見・新たな創出

※第2層SCは市社協へ委託。

※第2層協議体…「学区の医療福祉を考える会議」において、地域課題から地域づくりを行う主体

草津市における 令和 5 年度の取組

令和5年度 取組方針

目指す姿：住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり

ねらい・方向性

- ・市社会福祉協議会に第2層SCを配置し、市・地域包括支援センターとの連携のもと、各学区での協議体の設置・運営に向けて取り組む。
- ・第2層協議体では解決できない地域横断的または市全域の課題として検討が必要な事項については、第1層協議体において取り組む。

R5年度方針

- ・第2層協議体である学区の医療福祉を考える会議において、地域の各団体や専門職が地域の現状や課題について共有し、高齢者が自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくりを促進する機会をもつ。また、メンバー同士の顔の繋がる関係を促進する。
- ・これまでの活動や第2層協議体の活動からフォーマル・インフォーマル両方の地域資源が必要と認識していたが、共有して管理できるツールがなかったことから、システムを導入し、情報の円滑化を図る土台を作る。

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築

基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

取組実績(第2層：各学区ごと主な実績)

地域の関係者とともにさまざまな取組を実施

(第2層協議体「医療福祉を考える会議」は現在 13 学区で開催)

学区	取り組み内容
志津	認知症のひとにやさしいまちを目指し、認知症の正しい理解や対応について学ぶ機会を持ったり、地域のお店や事業所との連携した取組について検討を行った。
志津南	地域の子育てから高齢分野の多世代にわたる活動団体や事業所とともに地域の課題と資源の共有をしながら、(仮称)地域活動マップの作成に向けた取組を開始した。
矢倉	今年度は協議体の開催には至っていないが、地域では様々な取り組みをされており、また包括・SC・地区担当保健師の三者間やそれぞれが地域の各団体と関わっており、今後地域と現状共有から実施していく予定。
草津	コロナ禍が明け、再度支援者同士がつながり、コロナ禍で感じたことや今後の活動について報告し合い、情報共有に努めた。
渋川	R6 年度9月の完成を目標に、地域住民が活用できる高齢者の情報を中心とした地域の資源マップ作りを開始した。
老上	訪問サービス事業所が抱える駐車場に関する課題を通して、フォーマルとインフォーマルの両輪の必要性について事業所と地域住民がともに考え、実際に協力が得られそうな駐車場について意見を出し合い、今後の取組について検討した。

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築

基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

取組実績(第2層：各学区ごと主な実績)

学区	取り組み内容
老上西	高齢者の困りごとの解決に向け、まずは現状を共有し、地域でできる取組について検討を行った。
玉川	地域の福祉力アップを目指し、今年度は障害分野に焦点を当て、障害児・障害者への理解と啓発をすすめるための情報共有と取組について検討した。
南笠東	医療福祉について考える機会として、健康に関する講座を開催した。
山田	駐車場問題「ピカッと草津」について地域の人々に理解をしてもらい、駐車場の協力を得られそうな場所「地域だからわかる！ここどうだろう」のワークショップを行い、自分たちは何ができるかを検討した。
笠縫	医療福祉を考える会議と担い手研修をコラボして地域の現状と困りごとや地域活動を知ることテーマに話し合った。その上で事業所と地域の交流を行い、一緒に取り組めることを考えた。
笠縫東	駐車場問題「ピカッと草津」について地域の困りごととして地域で何ができるかを今後検討することとなった。
常盤	住み慣れた常盤でいつまでも暮らしていくために「今あるつながりや居場所はどんなものがあるか、これからどんなものがあたらいいか」を地域で意見を出し合い、新しいつながりづくりが大事であることを話し合った。

ピカッと草津(駐車場問題を通した高齢者の見守りネットワークの構築)

サービス事業所が訪問時に駐車場を確保することが難しく、適切なサービスを提供することが困難な場合がある。また、サービスは一部の人のものであるという、我が事として理解がされにくい状況がある。この課題について、地域とともに考え、フォーマル（介護保険制度・施策などのサービス）、インフォーマル（地域の支え合い活動）の協力の推進を図り、地域の理解を広げ、困っている人が困っていると言える地域、誰もが安心して住み続けられる地域を目指す取り組み。

取組実績（第2層）

地域の困りごとから、フォーマルとインフォーマルの連携の必要性について、グループワークを通して事業所と地域住民がともに考える機会を設けた。そこから、訪問駐車場に関する課題について、それぞれの学区で起こっていることを地域住民と共有し、実際に提供してもらえそうな駐車場について意見を出し合う等、地域でできることを検討した。

令和6年1月末：3学区(モデル学区)

今後の方向性（第2層）

- ・ 取り組みに協力を得られた駐車場のマップ作成と活用を目指す。具体的な方策については、地域との意見交換をしながら、地域の実情に合わせた取り組みの検討をすすめる。
- ・ 活動を通じて地域への理解を広め、高齢者の見守りネットワークの構築を目指す。

取組実績（第1層）

第2層協議体の課題集約・支援ができる体制づくり

- ・R5年度から、第1層SCと第2層SCの支援担当課を人とくらしのサポートセンターで実施する体制に変更し、第2層協議体の課題把握や支援の円滑化を行った。

住み慣れた地域で暮らし続けていくためにはインフォーマル・フォーマルどちらの活動も地域において必要不可欠である。現状として、地域の社会資源が整理・可視化しているツールはあるが、分野ごとに分かれていたため、一元化できていないことで、情報の共有や不足している資源の実態を掴むことが困難。



地域資源について共有できるシステムづくり

地域資源の情報を共有できるシステムを導入し、SCが情報を管理、活用しやすくなるよう働きかけた。



地域資源の把握／地域資源の拡充と創出

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築 基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

システムについて

システムの役割

地域資源を集約化し、

- 1、地域の可視化（地域診断）
- 2、各関係者の連携の強化
- 3、情報の提供（マッチング）

1、地域の可視化

- ・各学区ごとの実態を可視化する
 - ・可視化した内容を各関係者、地域と共有する。
- 地域情報を各学区別で抽出することができ、地域の実態を地域づくりや事業計画に反映できる。

1. 協働の基盤づくり

チームを組み、試行錯誤の協働を通じてチーム力を高めていく

2. 地域資源の把握と地域課題の抽出

地域づくりを「自分ごと」として捉える人を増やすと同時に、資源の充実に向けた方針を検討する

3. 地域資源の充実

①多様な参加の
きっかけ作り

②今ある活動や
サービスの強化

③新たな活動や
サービスの開発

地域の可視化



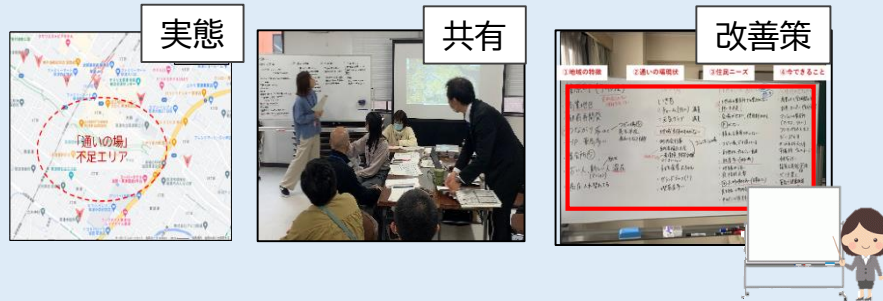
※イメージ

基本施策(1)地域ケアネットワークの構築 基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

システムについて

2、各関係者の連携の強化

- ・関係者との認識・活動共有に活用する
可視化した情報を基に、実態や課題、取り組みの共有ができる。



3、情報の提供（マッチング）

- ・地域資源を仲介する
 - ・地域資源を提供する
- 地域住民、各団体へ必要な情報を印刷して提供することができる。

連携強化

Step1 実態の共有（認識あわせ）

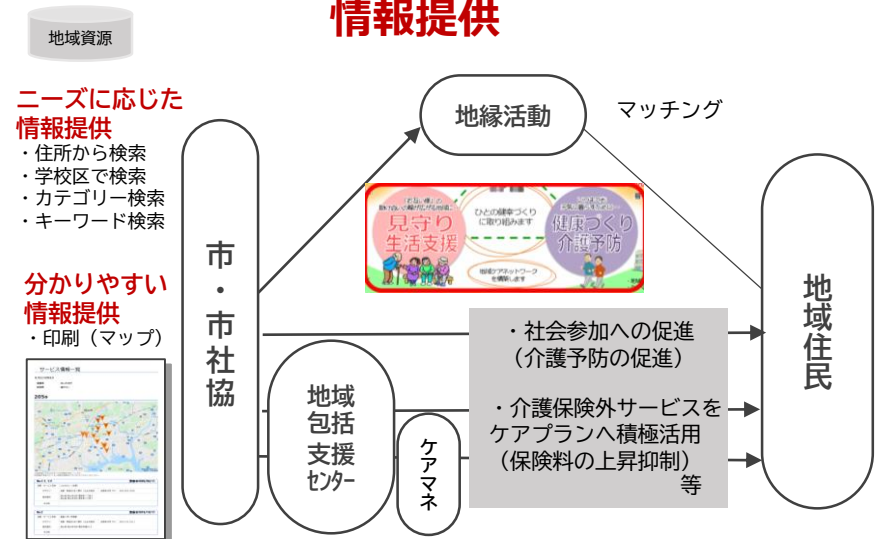
Step2 課題の共有（改善案）

Step3 取組みの共有（働きかけ）

サイクル化
（定着させる）

チーム力の強化

情報提供

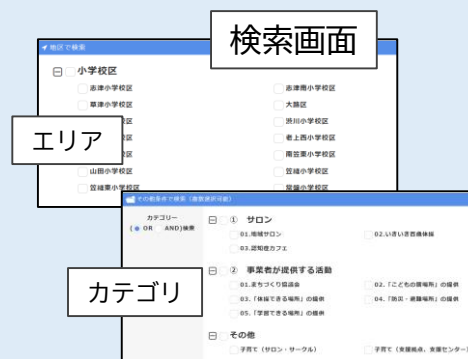


基本施策(1)地域ケアネットワークの構築

基本施策(2)助け合い・支え合い活動の充実

システムの取り組み実績

- ・市内に事業所を有する社会福祉法人に対して、実施している社会貢献活動の内容や対象者、頻度等のアンケートを実施し、その内容をシステムに反映した。
- ・地域サロン、子育てサークルや子育て支援拠点施設、いきいき百歳体操、認知症カフェなどの地域資源の情報などを市や市社協で把握している情報をシステムに集約した。
- ・第2層SCが使いやすいような情報内容の検討、全SCにシステムの使い方説明会の実施など行った。



次年度の課題・取り組み

第2層

各学区の状況に合わせて、地域包括ケアシステムの一助を担う。

- ・引き続き、学区の医療福祉を考える会議を通して、各地域の各団体や専門職が地域の現状や課題について共有し、高齢者が自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくりを行う。

第1層

フォーマル・インフォーマル資源について共有できるシステムの更なる充実化

- ・掲載する情報を追加したり、システムを利用して地区診断の実施、地域住民や各団体へ情報を提供するなど2層が活用しやすいシステムになるよう調整していく。また、各地域包括支援センターにも、共有を広げていき、より地域住民へ情報還元ができるよう推進していく。

地域課題の整理と解決に向けた道筋の円滑化

- ・第2層SCが高齢者のニーズや課題を把握し地域の支え合い活動等の創出に繋げることができるよう、共有・協議を行っていく。また、複数での第2層の課題や市全体での課題について把握し、第1層として取り組んでいく。